

社団法人企業メセナ協議会

1993年度事業及び収支予算案

バブル経済崩壊後の厳しい経済環境下でスタートした1992年度は予想に反して景気の回復に至らず、より一層深刻な不況の中で終わろうとしています。企業メセナに関するマスコミの論調は90年度から91年度にみられたようなブーム的な捉え方から一転してあたかも衰退しているかのようなものへと変わり、さらにはメセナの灯を守ろうとする方向へ転ずるなど、メセナをやっている方も、ながめている方もメセナの在り方を模索しているような印象をあたえる一年間であったと言えます。企業のメセナ活動も企業経営の悪化にともない、金額的な縮小を余儀なくされた企業が多くあったことと推測されますが、一方では企業内組織に担当部署を設けたり、単独或いは複数の企業が協力して文化施設を設けるなどメセナが着実に広がりつつあることも事実であります。メセナという言葉の知名度は上がってもメセナに対する具体的な認識や取り組み姿勢は理想に較べてまだ距離があると言わざるをえません。このような現状を考えると、メセナの理念を周知させる当協議会の役割はますます重要になってきていると言えます。従って、当協議会の事業活動も企業に対する啓発・普及事業にさらに力を入れていくとともに、企業がメセナ活動をしやすくするような環境を具体的に実現することが必要であります。このような企業の動向に刺激されて、地方自治体も文化振興に力を入れ始めていますが、大方は相変わらず文化施設の建築といったハードの充実に熱心で、その運営や地区の文化振興には明確な理念を持ち合わせていないのが現状です。そこで出来上がった施設の運営などに企業の力を期待する空気が高まっております。当協議会としてこうした現状に対応していくことも重要であると考えます。以上のような当協議会を取り巻く諸環境を考慮し1993年度の実業は次の3点を中心に進めてまいります。

①企業及び一般に対する啓発・普及活動の充実

セミナーの内容を改善し企業のメセナ担当者の業務能力の向上を図ります。

海外から専門家を招聘しメセナについての認識を高めます。

当協議会の出版物を一新し、一般の人々への啓発に役立つようにします。

②メセナを実施しやすい環境の構築

当協議会では昨年8月メセナに関する税制上の優遇措置を大蔵省に要望致しました。しかし、大幅な税収減が見込まれる現状からみて、抜本的税制改正の実現は非常に難しい状況にあります。そのなかで、少しでもメセナを実施しやすくする当面の策として当協議会の特定公益増進法人化があります。即ち、企業が当協議会を経由して支援した場合免税になる方策です。93年度は特定公益増進法人の実現に向けて関係省庁と折衝してまいります。

③行政と民間が協力して文化を支えている海外事例の研修

スイス・ドイツに視察団を派遣し、地方自治体と企業、市民の文化支援の現状を視察し、日本に適応する道を探ってまいります。

事業計画の具体的内容及び収支計画案は次の通りであります。

1. 1993年度収入計画

1.1 会費収入

1993年2月24日現在、正会員は177社466口、準会員は38社42口となっております。1993年度の予算編成上の会員獲得目標を一応、正会員34口合計口数500口、準会員8口合計口数50口とし、会費収入合計13,100万円を見込みました。

1.2 事業収入

メセナ誌の売上収入を100万円、メセナ誌広告収入360万円、セミナー等の参加費収入を110万円と見込んで事業費収入計650万円としました。

1.3 雑収入その他

受取利息などで250万円を見込んでおります。

2. 事業計画

2.1 啓発・普及事業

2.1.1 会員懇話会

これまでと同様に通常総会のあと、会員の親睦と情報交換の場として年2回開催いたします。

2.1.2 定例会

会員企業とアーティストや文化団体との相互理解の場とする定例会は今年度は6回（「障害社者たちとのクリエイティブ・ムーブメント・セッション」「MUSIC TODAY'92」「リハビリ施設見学」「佐渡からの芸術発信」「出口正之氏講演会」「P3見学」）開催しました。1993年度も同様に年6回程度いろいろな芸術文化に触れる機会を企画してまいります。

2.1.3 企業メセナセミナー

会員企業のメセナ担当者を対象に、企業メセナの実務を修得することを目的に行っている企業メセナセミナーは、1993年度は次の3本を柱として開催してまいります。

(1) 企業メセナセミナー入門編

新しくメセナの担当になった方々を対象に、1991年度に行ったような「メセナ概論」講座を1～2回開催します。

(2) 「メセナの現場は今—ケーススタディ①」

今日の厳しい経済状況の中、会員企業のメセナ担当者が相互に現場の状況を具体的に報告し、ノウハウを公開する会員企業の会員企業によるセミナーを年6回程開催します。

(3) 芸術講座「アートを学ぶ：今日の芸術」

今年度開催したセミナー「アートを学ぶ」が、各芸術分野の通史を学ぶ基礎知識講座であったのに対し、1993年度はその延長として、現在の芸術状況を概観する講座を年4回程開催します。

2.1.4 アートマネジメント講座

芸術団体などを対象にした外部向け講座であるアートマネジメント講座は1993年7月に、米國コロンビア大学ジョン・ジェフリー教授を招聘して開催いたします。

2.1.5 事業共催

他の団体の活動で企業メセナの啓発・普及に役立つものがあれば共催で実施してまいります。1991、1992年度は文化バステルとの共催で「文化フロンティア会議」を開き、NHK教育テレビで放映され、注目を集めました。今年度も「文化フロンティア会議'93」を文化バステルとの共催で実施するなど積極的に対応してまいります。

2.2 情報集配・仲介事業

2.2.1 メセナ誌

メセナ誌は従来どおり3か月毎に発行いたしますが、内容的には関係者の参考となる情報研究誌としての性格を深めて、一部書店での販売や定期購読制を予定しています。また、事務局からのインフォメーションや助成要請情報等をまとめた会員企業向けニューズレターを2か月毎に発行いたします。

2.2.2 メセナモデル研究会

今年度同様、随時開催していきます。

2.3 調査・研究事業

2.3.1 メセナ白書

『メセナ白書'93』は各企業のメセナ活動の実施状況データに加え、各企業のメセナに関する基本的な方針や考え方を調査するとともに、バブル崩壊がメセナ活動に与えている影響なども調査項目といたします。なお、発行は9月の予定です。

2.3.2 調査研究

『メセナ白書』以外にも協議会として取り組むべき調査研究を行ってまいります。今年度はメセナに関する一般の意識調査を実施しましたが、1993年度は芸術家側のメセナに関する意識調査を実施いたします。

2.4 顕彰事業

2.4.1 メセナ大賞

第3回メセナ大賞につきましては、基本的に第1回、第2回を踏襲してまいります。

2.5 国際交流事業

2.5.1 スイス・ドイツ視察旅行

スイスのフィリップ・ブランシュワイグ氏をオーガナイザーとして、1993年10月31日より11月10日にかけて、スイス・ドイツへのメセナ視察・交流旅行を予定しています。

2.5.2 3周年記念事業・国際シンポジウム

5月17日～20日、ウィラード・ブッチャーBCA前会長を日本に迎え、「不況下における文化支援」についての講演と、今後の日米のメセナの方向や協力関係等を考えるためのシンポジウムを開催いたします。

2.6 助成事業

企業と協力して、芸術文化活動への助成を行ってまいります。

3. 収支予算案

収支予算案は別紙のとおりです。